

日吉台地下壕保存の会会報

第74号

日吉台地下壕保存の会

2005年度総会のお知らせ

また今年の総会のお知らせをお送りする時となりました。一昨年の総会のお知らせをお送りするとき、「世界では人々の平和への願いも空しく大変な戦争が始まってしまいました。新たな戦争遺跡を作らない、戦争の実相を知るために戦争遺跡の保存をという戦争遺跡の保存運動にも大きな課題が投げかけられていると思います。」と書きました。

残念ながら世界では、いまだに新たな戦争遺跡が作られつつあります。しかし昨年度の総会からまた1年、日吉台地下壕保存の会もまたは微力とは言え、戦争遺跡保存全国ネット館山大会への取り組み、未発見の防空壕が慶應大学日吉キャンパス校内で見つかったこと、特攻60年として、平和のための戦争展への取り組み等々、着実な活動を続けてきました。今年は敗戦から60年の年です。今年の戦跡保存全国ネットの大会は敗戦と被爆を考えるため、長崎で行われます。総会の場でこれから活動の方向の確認ができればと思います。是非多くの会員の方々のご来場をお待ちしております。

2005年度日吉台地下壕保存の会 講演会・総会

日 時：2005年5月28日（土）午後1：00～4：00

場 所：慶應義塾大学日吉キャンパス 来往舎 中会議室

講 演：1：00～2：00

題目 神奈川県の戦争遺跡

～今、平和のために残したい戦争遺跡の現状は～

講師 新井 摳博（戦争遺跡保存全国ネットワーク委員）

討 論 2：00～3：00

総 会 3：15～3：45

慶應高校校舎裏に未確認防空壕発見される！

2005年1月、偶然のことから慶應高校校舎裏に今まで知られていなかった防空壕が確認され、2月28日と3月19日2回にわたり、調査、見学が行われました。その詳細は慶應大学考古学研究室の桜井準也助教授から本会あて報告が以下のようにありました。その際の写真記録を合わせてご覧下さい。それにしても戦後60年未だに日吉台地下壕とその周辺の戦争遺跡の全貌がつかめていないとは・・・

〔報告〕慶應義塾高等学校購買部棟東側から発見された地下壕

桜井準也（慶應義塾大学文学部）

1. 調査に至る経緯

本地下壕は、2005年1月に岸由二経済学部教授の指導もとに学生が一の谷周辺で行った生態調査の際、慶應義塾高校購買部東側で偶然発見されたものである。その後、岸教授より高山博文学部教授を通して連絡が入り、急遽現地に赴き内部を確認した。その際、大学側は内部の天井が崩落しており危険なため埋め戻したいという意向であったため、同年2月28日に記録保存のための測量調査を行うこととなった。

2. 地下壕の測量調査

地下壕は慶應義塾高校購買部東側の一の谷（マムシ谷）を臨む台地縁辺部に位置する（図1）。台地の標高は約37mであり、地下壕は地表面から約1～3mの深さに掘削されている。この地下壕は日吉台に構築された旧海軍連合艦隊司令部地下壕などの地下壕とは異なり、地表面から数メートルの浅い地層（関東ローム層立川ローム層下部相当）に掘削された地下壕である。測量調査は2月28日に高山教授、慶應義塾大学文学部民族考古学専攻生6名の協力を得て実施した。具体的な作業としては、地下壕の位置図の作成、内部実測、写真撮影を行った。

本地下壕は慶應義塾高校購買部の建物の東側3mの位置に入口がある（図2）。この入口は現状では幅深さとも2m程の竪穴であり、底部の南西側の横穴に繋がっている。調査の結果、竪穴は埋土部分にゴミ穴として最近掘られたもので、本来は一般の地下壕と同様に台地の崖面から

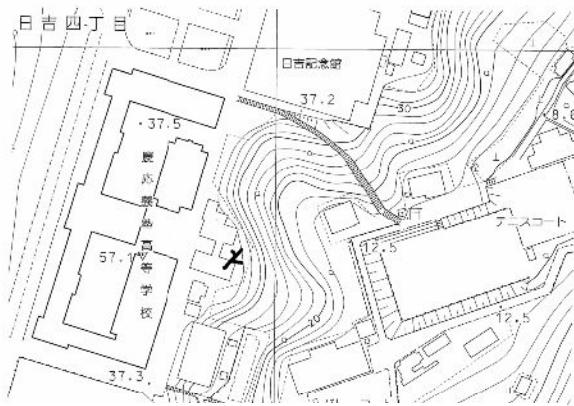


図1 地下壕の位置



写真1 現在の入口

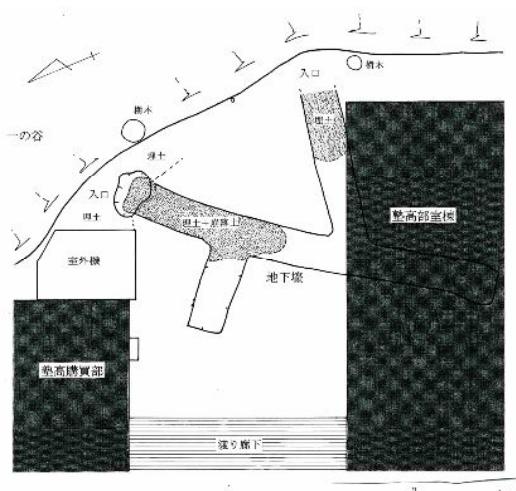


図2 周囲の状況

横方向に出入りする形状であったと推定された。中に入ると入口付近から7m付近までは戦後に入口を塞いだと思われる土砂と天井の崩落土（関東ローム）が斜めに堆積している。地下壕の大きさは幅1.5m、高さ1.4～1.9mで慶應義塾高校の部室棟に向かって南南西方向に約17m延び、奥に入るに従

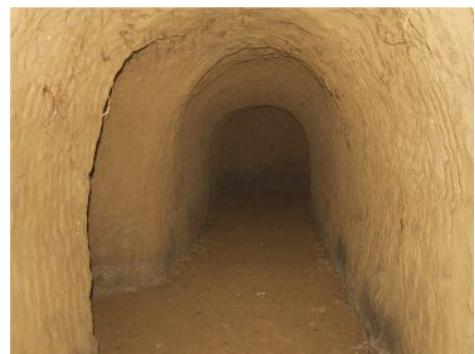


写真2 入口より奥方向

って徐々に下がっている。標高差は最初の枝分かれ付近と最奥部で約50cmある。内部形状は入口から4mの地点で右側に枝分かれし、9mの地点で左側に枝分かれしている(図3)。後者の枝分かれの先には別の入口が存在すると推定され、分岐点の約4m先からは入口を塞いだと思われる埋土が堆積している。また、壕最奥部の右側には壁を掘削しかけた痕跡があり、工事が途中で中断された可能性がある。残存していた遺物としては、入口から13m付近の右壁には鎌が突き刺さった状態で存在し、最初に枝分かれ



写真3 北西方向への枝分かれ

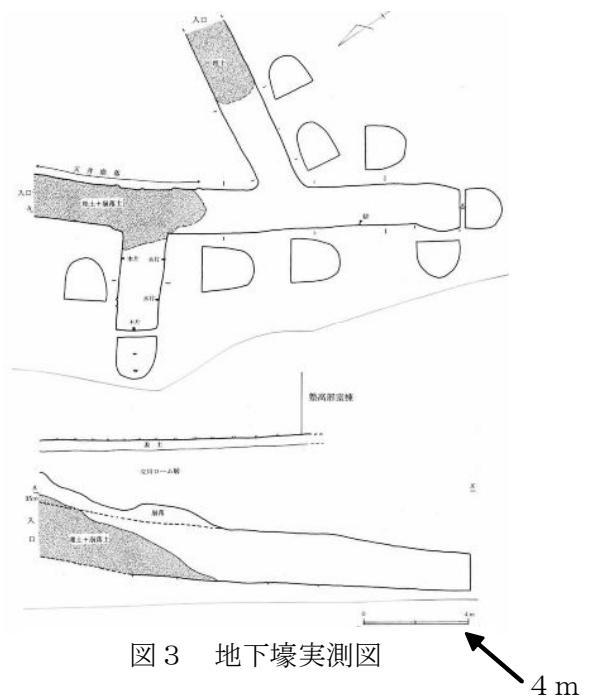


図3 地下壕実測図

3. 地下壕の性格

このように比較的地表面から浅い地層に掘られるこのような地下壕は民家近くにある、いわゆる「防空壕」ではなく、湘南地域から横浜地域にかけて多く分布する、本土決戦を想定して構築された「戦術用地下壕」に該当する可能性がある（桜井 1999）。このような地下壕は藤沢市北西部に位置する慶應義塾湘南藤沢キャンパス内遺跡でも検出されている（図4）（岡本 1993）。當時、

「戦術用地下壕」の構築は「築城」と称されており、『戦史叢書 本土決戦準備<1>』

(防衛庁防衛研修所戦史室 1971)によると、大本営陸軍部は昭和 20 (1945) 年 3 月に本土決戦に備えて『国土築城実施要綱』を示している。また、具体的な掘削時の状況として、ビデオ『戦時下の藤沢・藤沢にも戦争があった』(藤沢市・藤沢ケーブルテレビ) に陸軍護東部隊所属で藤沢市御所見の地下壕を構築した当事者のインタビューが採録されている (清水 1997)。それによると、昭和 20 年 (1945)、現役部隊に補充兵・少年兵を召集して護東部隊が編成され、各

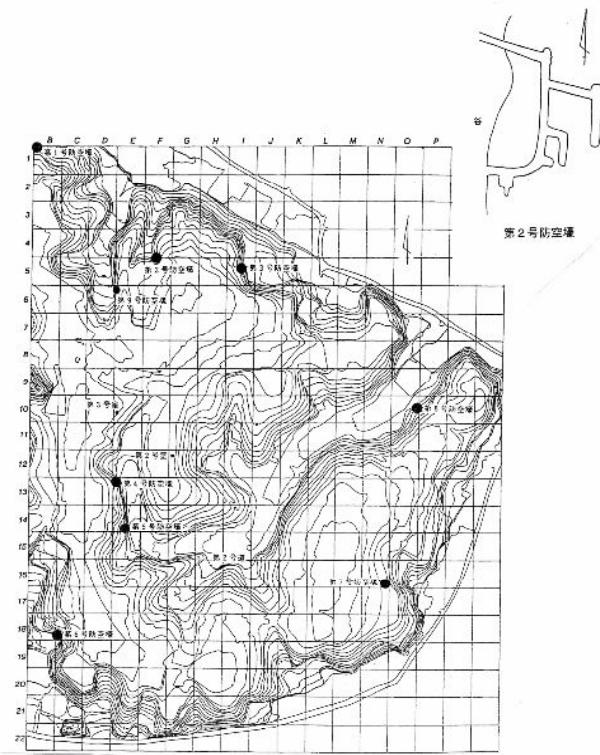


図4 慶應義塾大学湘南藤沢
キャンパス内の地下壕

中隊・部隊に分かれて江の島の北側でひたすら防空壕掘りの作業を行ったという。残念ながら本地下壕の掘削の経緯や当時の状況に関しては今のところまったくわからっていない。

慶應義塾大学日吉キャンパス内には、連合艦隊司令部地下壕、軍令部第三部（情報部）地下壕・東京通信隊・航空本部地下壕、人事局地下壕などの旧海軍の地下壕群が存在し、保存や公開が求められている。今回の調査によって、地表面から数メートルの深さに掘られた従来とは性格の異なる地下壕が存在することが、戦後60年目にして明らかになった意義は大きい。

今回の調査は慶應義塾大学超表象デジタル研究センターの共同研究「空間と人間：キャンパス・スフィアにおける適応・生態・表象・デザインの分析と展開」（代表 高山博 慶應義塾大学文学部教授）の一部として実施したものである。調査にあたっては、岸由二、高山博、喜田美登里、文学部民族学考古学専攻生（間舎裕生、千葉毅、下島綾美、大滝未知郎、高須美羽子、塩野智子）、慶應義塾日吉キャンパス事務センター運営サービス担当、日吉台地下壕保存の会の諸氏・諸機関にお世話になりました。

<参考文献>

岡本孝之 1993 「第III章 慶應義塾湘南藤沢キャンパス内遺跡における人々の生活と歴史 第3節 弥生時代～近世・近代」『慶應義塾湘南藤沢キャンパス内遺跡 第1巻 総論』慶應義塾

桜井準也 1999 「発掘された戦争遺跡－藤沢周辺の遺跡から発掘された「防空壕」について－」『湘南考古学同好会々報』75号

清水照信 1997 「シナリオ『戦時下の藤沢 藤沢にも戦争があった』」『藤沢市史研究』30号

防衛庁防衛研修所戦史室 1971 『戦史叢書 本土 決戦準備<1>—關東の防衛—』朝雲新聞社

☆日吉キャンパスにある地下壕等の点検

慶應義塾が行なっていた地下壕の整備が終わり、保存の会運営委員で見学会に先立ち、3月19日に地下壕の見学をしてきました。内部は危険防止からフェンスなどを作り、外部からの進入防止や危険個所へ行けないようにしてありました。また、溜まっている水の排水を試みたのですが水が湧き出ているために排水は出来ませんでした。また、何箇所かコンクリートの強度測定をした跡もありました。坑内の見学の後、以前から調査の必要性を感じていた、まむし谷バレーコートの反対側の斜面にあると思われる航空本部地下壕入り口部の跡を調査しました。いくつかのコンクリート構造物を見つけました。いずれ発掘調査をしたいと考えています。以下のように簡単にまとめてみました。

調査日 2005年3月19日(土)

参加者 桜井準也慶大助教授・岩崎昭司・喜田賢次・喜田美登里
齊藤秀夫・常盤義和・中沢正子・新井揆博



連合艦隊地下壕入坑部を入って正面の壁は、築造後改めて作り直したものか



内部にフェンスを作り、外部から入れないよう補強されていた。



発電機室・消音器室に通ずる通路にもフェンスが作られていた。



フェンスの先の通路には排水できずに水が溜まっていた。



内部のコンクリート壁には、今回の補強工事にあわせて行なったものか数ヶ所強度測定跡が残っていた。



壁の要所に赤ペンキでイ・ロ・ハの文字が記されている。いつ書かれたものか?

高校バレーコート南側斜面のコンクリート構造物。航空本部地下壕の入坑部か?発掘調査の必要がある。



高校バレーコート東側斜面に、大谷石で築造された直径約3m、深さ約2mの堅穴がある。「水槽」として作られたものか、内部に太い土管がみられる。調査・研究の必要がある。

高校バレーコート東側斜面に、図面上3本ある航空本部地下壕2本目の入坑部と思われるコンクリート構造物がある。



上記コンクリート構造物から北へ約40m離れたところに大きなコンクリートブロックがある。図面上3本目の航空本部地下壕の入坑部に位置しているので、ここも発掘調査によって明らかにしたいものだ。

報告 『軍隊のない国コスタリカ』

岡上そう (運営委員)

『軍隊のない国コスタリカ』と題して、2005年1月30日に東京空襲資料館で開催された平和イベントに参加してきました。

自分は午前中、地元港北区の『港北駅伝大会』で第一区の走者として出場してきたので、空襲資料館への参加は午後からとなりました。

午前中はコスタリカのビデオ等の上映があったのですが見られなくて残念でした。

自分が到着したときには館長でもあり作家の早乙女勝元氏の記念講演が始まっていました。

早乙女氏の講演には人を引き寄せる魅力と作家としてのアーティスティックな感性を感じました。

ラストのシンポジウムは『女性と若者が語る』形式のシンポジウムで、参加者は自分を含め5名でした。時間が少ないとあって、シンポジウムは『フリートーク』として、会場の方々とともに意見交流をしました。意外にも教育問題に熱が入り、9条改悪にともなう石原都知事の強引なまでのやりかた、教育現場の現状、子供をもつ親としての切実なる想いが交錯するトークとなりました。平和を考えるうえで無視できない問題でしょう。戦争と教育とは密接な関係があるのだと感じました。今だからこそ『教育』について我々戦争遺跡保存団体や平和団体はしっかりと目をむけなければならないでしょう。

今回の主催は『いのちの環 むすびの衆』の梶谷泉さん、共催に『ごまめ通信社』と私が日吉台地下壕保存の会でした。他の会との交流を含め、今後の活動を活性化させるためにも、良い経験になったと思います。



☆ 戦争遺跡保存全国シンポジウム長崎実行委員会報告

新井揆博 (戦争遺跡保存全国ネットワーク委員・運営委員)

第1回戦争遺跡保存全国シンポジウム長崎実行委員会が2005年3月15日18時30分～20時20分に長崎教育文化会館で開かれた。

全国ネットワークから村上有慶代表・新井揆博運営委員・島村晋次事務局長が出席し、地元長崎からは32団体が参加して、以下のことが決まった。

全国シンポジウムは敗戦・被爆60周年の事業として、全国大会を長崎で開催する。このため、県下各地で戦争遺跡の保存運動を進めている団体・個人によって「現地実行委員会」を立ち上げる。さらに、全国シンポジウム長崎大会を基点として、全県的な戦跡保存運動へ繋げていく。

役員代表 本島 等 (前長崎市長)

副代表 岩松繁俊 (在外被爆者を支援する)

高実康稔 (NPO岡まさはる記念長崎資料館)

船越耿一 (市民運動ネットワーク長崎)

大会日程 2005年8月20日(土) 21日(日) 22日(月)
開催地 長崎市内。



挨拶する本島現地実行委員会代表



☆ 第13回川崎・横浜「平和のための戦争展」実行委員会 参加の呼びかけ

私たち戦争展実行委員会は、川崎・横浜にある戦争遺跡、登戸研究所・蟹ヶ谷海軍通信隊地下壕・日吉台地下壕を保存する会が中心となって毎年戦争展を開催してまいりました。早いもので、私どもの戦争展も多くの方々の支援を受けて、今年で13回目を迎えることができました。

今年はとりわけ日本がアジア太平洋戦争で行なった侵略戦争に敗れて60年という節目の年で、人生にたとえれば還暦にあたります。そこで私たちは新たな時代の始まりとして、今までにない戦争展を行なっていきたいと考えています。60年前の1945年・昭和20年、日本国民もあの戦争で大きな被害を受けました。また、日本の侵略で被害を受けた韓国・朝鮮や中国の人々が、どのようにしてこの60年を生きてきたのか考えたいと思います。1945年(昭和20年)の定点にたって、経験者に自らの体験を話してもらったり、東京大空襲や広島・長崎で行なわれているような戦争体験を絵画で伝える手法を取り入れて、戦争展に新たな工夫を凝らしたいと考えています。

また、戦争を知らない世代が増加していくなかで、戦争体験をどのようにして知らない世代へ伝えていくのか。日本に留学している韓国・中国の学生さんから、戦争体験がどのようにして伝えられているのか、ご自分の受けてきた教育の話を聞かせてもらったりして、戦争体験が次の世代にどのように継承されていくのかを日本だけでなくアジア全体の観点から考える戦争展にしたいと思っています。

このように企画盛りだくさんの節目の戦争展です。今までのように三つの保存会が中心となってささやかに行なっていた実行委員会では、これだけの企画を行うことができません。広汎な多くの人々が、実行委員会に入っていただくことによって、初めて成功させることができます。どうか皆様のお力を貸していただき、是非、今年度の戦争展を成功させてください。

実行委員会呼びかけ人(順不同)

須田輪太郎(人形劇作家)、白井厚(慶應義塾大学名誉教授)、

2005年4月20日(水) 第74号

(9)

渡辺賢二(歴史教育者協議会事務局長)、新井揆博(戦争遺跡保存全国ネットワーク委員)、大西章(日吉台地下壕保存の会会長)、亀岡敦子(第12回「平和のための戦争展」実行委員長・日吉台地下壕保存の会運営委員)、喜田美登里(第12回「平和のための戦争展」副実行委員長・日吉台地下壕保存の会運営委員)、大庭乾一(法政二中高 社会科教諭)

連絡先 亀岡敦子 045(561)2758

新井揆博 044(766)7859

大庭乾一 090(7214)1395

○川崎・横浜「平和のための戦争展」実行委員会会議報告

(2005年4月12日 18時~20時30分)

当日の会議で確認した事項

テーマ 昭和20年“戦争の記憶”をひきつぐ

会場 川崎市平和館

期日 2005年7月16日(土)・17日(日)…

7月15日 会場準備

7月16日 午後 朗読 大原穂子 松尾敦子 その他

7月17日 午前 シンポジウム

アジアで交流し学んでいる若者の発言

齊藤一晴(明大大学院)、チエ・ギョンスン(東大大学院)、

風巻浩(県立麻生高校教諭)、柴田(県立川崎高校教諭)、

その他、韓国・朝鮮・中国からの留学生数名(すべて予定)

7月17日 午後 記念講演

早稲田大学教授 大日方純夫

「アジアとの歴史対話の意義と課題(仮題)」

展示 実物資料の展示(陸軍登戸研究所その他)

絵画の展示(市民が描いた“戦争の記憶”)

戦争遺跡の写真(神奈川の戦跡)

イベント 慶應義塾日吉キャンパス「連合艦隊地下壕」見学(日時未定)

☆地下壕見学会再開について☆

日吉台地下壕の見学会は、昨年の台風の影響でおきた、入り口近くの崖崩れの修復工事、壕内の安全調査・工事のため、10月から中止しています。近隣の小学校や多くのグループの見学をお断りすることになり、大変ご迷惑をおかけしています。現在、慶應大学による安全工事も終わり、定例見学会を4月30日(土)に再開します。申込みを受け付けます。お問い合わせは見学窓口にお願いします。(☎045-562-0443 喜田)

☆第10回平和のための戦争展 in よこはま開催のお知らせ☆

戦後・被爆・横浜大空襲60年「見つめよう 語り合おう 戦争の過去と今」

日時 5月27日(金)~29日(日) 会場 かながわ県民ポートセンター

内容 ◎講演 小山内美江子さん 土志田勇さん他 ◎青葉区・都筑区の小中学生のパフォーマンス ◎展示 横浜大空襲ほか、過去の戦争の実相・現在の平和の危機・未来を展望する平和の文化に関する展示 ◎ビデオ上映・トークの交流スペース

問い合わせ 045-241-0005 平和のための戦争展 in よこはま実行委員会

活動の記録 (2005年1月~4月)

- 1/18 第7回運営委員会 会報73号発送 (慶應高校物理教室)
- 1/30 「軍隊のない国コスタリカと憲法9条の集い」(東京大空襲・戦災資料センター) 主催:生命の環・むすびの衆/平和の為の映像文化茶論
共催:ごまめ通信舎/吉日湯/日吉台地下壕保存の会
- 2/9 艦政本部地下壕埋め戻し再開の住民説明会 横浜市 危機管理室・文化財課 (日吉台小学校体育館)
- 2/23 第8回運営委員会 (慶應高校物理教室)
- 2/28 慶應高校校舎裏防空壕の学術調査 高山博氏、桜井準也氏、学生 (慶應大学 民族学考古学)
見学会 (地下壕工事中のため、キャンパス地上部のみ) 田園調布学園高校 3年生 20人
- 3/5に予定されていた、Bブロック航空本部側地下壕部分開発についての大槻工務店・ナイスプランニングによる住民説明会は中止になりました。業者は15戸の戸建住宅開発を計画しています。
- 3/15~16 戦争遺跡保存全国ネットワーク 2005年長崎市大会実行委員会 (長崎市)
- 3/19 慶應高校校舎裏防空壕見学・工事後の司令部地下壕の下見・Bブロック航空本部側地下壕の地上部調査 (桜井準也氏・運営委員6名他)
- 3/23 第9回運営委員会 (日吉地区センター)
- 3/24 平和のための戦争展 in よこはま実行委員会 (かながわ県民ホールセンター)
- 3/29 川崎・横浜平和のための戦争展 実行委員会 (法政第二高校 教育研究所)
- 4/8 平和のための戦争展 in よこはま実行委員会 (かながわ県民ホールセンター)
- 4/12 川崎・横浜平和のための戦争展 実行委員会 (法政第二高校 教育研究所)
予定
- 4/20 第9回運営委員会 会報74号発送 (慶應高校物理教室)

連絡先(会計) 亀岡敦子: 横浜市港北区下田町5-20-15 TEL 045-561-2758

(見学会・その他) 喜田美登里: 港北区下田町2-1-33 TEL 045-562-0443
ホームページ・アドレス: <http://www.geocities.Heartland-Hanamizuki/2402>

日吉台地下壕保存の会会報

(年会費) 一口千円以上

発行 日吉台地下壕保存の会	郵便振込口座番号 00250-2-74921
代表 大西章	(加入者名) 日吉台地下壕保存の会
日吉台地下壕保存の会運営委員会	